

■e-黒板ニュース（第49号）：クラス全員が手を挙げる授業

三木市立教育センター副所長の梶本佳照先生から、「電子情報ボード」を活用した実践授業のご案内をいただきました。昨年、何度となくご案内をいただいていたのですが、当方の都合がつかず2月21日の訪問となってしまいました。

授業を担当された三木市立緑が丘東小学校の尾崎さとみ先生は、昨年度も教育センターでインタビュー調査にご協力いただきました。尾崎先生のクラスは、30名全員が「ハイ!」「ハ〜イ!」と手を挙げて、自分が答えようとするとても素直で積極的な子どもたちでした。

また、2月25日には、埼玉県上福岡市立駒西小学校を訪問し、実践授業の見学と意見交換をさせていただきました。上福岡市はすべての学校にプラズマ型の電子情報ボードが導入されているそうです。こちらも、素直で明るく集中力のある子どもたちでした。そんな子どもたちの姿を見て、「最新の機器を活用した授業は、子どもたちに充実した環境で学べる幸せと満足感を与える」という、先の英国訪問で聞いた話を思い出しました。

今号の目次：

- =====
1. 報告：兵庫県三木市立緑が丘東小学校訪問報告
 2. 報告：埼玉県上福岡市立駒西小学校訪問報告
- =====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。会員の皆様からの投稿もお待ちしております。

宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. 報告：兵庫県三木市立緑が丘東小学校訪問報告

新神戸駅から地下鉄と神戸電鉄を乗り継いで約45分の緑が丘駅から2Km、三木市立緑が丘東小学校に着きました。広い広い校庭に新しい立派な校舎です。

三木市立教育センター副所長の梶本佳照氏のアレンジと立会いにより、4年2組の尾崎さとみ先生が実施した「算数、単元：角」の授業の見学と、授業終了後のインタビューを報告します。

三木市立緑が丘東小学校は、三木市立教育センターが実施している「IT活用モデル校」であり、特に電子情報ボードの活用に関しては3年前から実践し、多くのノウハウが蓄積されています。

1時過ぎに学校に着くと、すぐに校長室で約30分、福西校長とお話することができました。「教育への関心が高い地域です」とのことでした。

1時50分から、「今から5時間目の授業をはじめます」という当番の声で、授業が始まりました。

単元は、「角」です。先生が、紙で作ったジャバラとストローで孔雀の羽のように、角を広げていきます。そして、電子情報ボードには問題が5つ程出題されています。「どちらの角が大きく広いですか?」という先生の質問に、「ハイ!」「ハ〜イ!」とクラスの30人全員が手を挙げました。先生は、順番に当てていきます。当てられた子どもはうれしそうに前に来て、電子情報ボードをタッチして答えていきます。正解すると、「天才」とか、「ウルトラ天才」と褒めの言葉が表示されます。

先生が、「これが最後です」というと、「へ〜。これが最後?」と不満そうです。しかたなく、先生はもう1問追加しました。また、正解です。すると今度は、「超ウルトラ天才」と出たのでみんなは大満足だったようです。

指導案によると、使われたデジタル教材はTOSSELの「ぶんどキンちゃん」というコンテンツだったようです。

子どもたちの「視点の集中」を意識して、子どもたちの方を向いているパソコンの画面は、ハンカチで覆ってありました。こんなところにもさりげない工夫がされているようでした。

3時過ぎから、授業を終えたばかりの尾崎先生にインタビューをさせていただきました。インタビュアーは、三菱総研の佐藤さんと私です。

- ・当初は、電子情報ボードの「設定のじゃまなさ」を感じていたが、このごろは慣れてきて、「便利だな」と思い、活用する回数も増えてきた
 - ・算数で分度器を使う場面とか、社会科で教材を提示したいときなどで使っている
 - ・大きく写せるところがいい
 - ・子どもたちはTV的な動きをするものに慣れている。こっこう見てくれる
 - ・目線を合わせて授業ができるところがいい
- などとお話してくれました。

三木市では、教育委員会の方針により、他地域に先駆けた電子情報ボードの活用実績があり、「機器準備に関する精神的な負荷の軽減」、「活用教材の検索手法」、「活用効果の認識の浸透」など、長期間活用しているがゆえに明確となってきた「電子情報ボード活用のメリット」について、知ることができました。

2. 報告：埼玉県上福岡市立駒西小学校訪問報告

関東地方に珍しく積雪のあった日でした。
池袋駅から東武東上線で約30分、ふじみ野駅から歩いて10分ほどところに、上福岡市立駒西小学校がありました。
10時半ころに学校に着くと、校庭や中庭で「雪合戦」がはじまっていました。

授業は、10:50からの3時間目です。単元は「人と自然」。6年三組で27名の児童。授業者は教務主任の斉藤一美先生です。見学者は、上福岡市教育委員会から次長・課長を含む4名と、電子情報ボードメーカーから5名と私です。

「人が生きていくためには、何が必要でしょうか？」
前の時間の復習から始まりました。プラズマ型の電子情報ボードに、整理された情報が表示されていきます。「水」「空気」「食べ物」。
次は、「白神山地」「尾瀬」「谷津干潟」の自然を見せるために、ホームページを表示していきます。

「課題」「計画」「解決」「まとめ」の順に、授業は進められました。
・「課題」は、「豊かな自然を守るために私たちにできることを考えよう」です。
・「計画」は、話し合いで、①司会・発表・記録を決める ②視点にそって話し合う ③出された意見を書く ④発表する です。
3つの視点とは、①すぐにでもできること ②自分でできること ③身近な生活の中でできること です。
・「解決」は、紙（色画用紙）に書いて発表する。
・「まとめ」は、感想をノートに書く です。

電子情報ボードは、授業の中でごく自然に教材提示用として使われていました。
Webとパワーポイントが活用されていました。

授業が終わったあと、4時間目の時間に、研究協議会がありました。
上福岡市学校教育課指導主事の関根曰衛さんの司会で、小宮栄校長が中心になって進められました。
斉藤先生の報告で、昨年9月から電子情報ボードを使い始めたという駒西小学校ですが、そのメリットの理解や活用方法の工夫について知ることができました。

珍しいと思ったのは、メーカーの人との意見交換や機器への改善要望を積極的にされたことです。将来的なことも含めて、いろいろな意見が出されました。逆に、メーカー側からも熱心な質問がありました。このようにして、さらにより「教材・教具」に育っていくのだと思います。

小宮校長自ら、「保護者会では、パワーポイントを使って説明する」ということを聞いて驚きました。校長先生のリーダーシップにより、全校を挙げて教育の情報化に取り組まれていることが分かりました。

私は、今までの調査で分かった「電子情報ボードのメリット」についてまとめた資料を配りました。そして、資料には書いていなかった「もう一つのメリット」についてお話ししました。それは、電子情報ボードを使った授業をすることは、子どもたちに「こんないい環境で勉強できる幸せ」を感じさせることができるということです。このことは英国訪問で学んだことですが、市を挙げて・学校を挙げて教育の情報化に積極的に取り組んでおられるみなさんに、ぜひ伝えたいことだったのです。

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会 ホームページ： <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>
=====